

〔1〕縄文時代

(1) 答え: ㉔

竪穴住居は、地面に方形や円形の穴を掘り、穴の中にさらに柱穴を掘って柱を立て、上屋を作った建物です。掘立柱建物は、地面に柱穴を掘って柱を立てて建てられたもので、このうち床面が地表についているものを平地式、地面から離して作られたものを高床式といい、高床のものは倉庫などに使われました。礎石建物は、礎石と呼ばれる大きな石の上に柱を立てて上屋をのせた建物をいいます。

(2) 答え: ㉒

貝殻や土器片などが出土することから、当時のゴミ捨て場だったのではないかと考えられています。しかし、中には人骨が見つかったり、生活道具が大量に見つかったりする例もあることから、すべてがゴミ捨て場だったのかはわかっていません。

(3) 答え: ㉓

㉔の埴輪は古墳に並べられました。㉒の石棒は縄文時代の遺跡から出土する磨製の石製品で、なんらかのお祭りやまじないに関係があるのではないかと考えられています。㉓の土面は縄文時代の終わり頃に使われた土製の面のことです。実際に顔につけたのかはわかりませんが、紐を通す孔が空いているものもあります。顔の表現が多彩です。



あ



い



え

1万年も前から日本にいたワン!

(4) 答え: ㉔

縄文時代のはじめ頃の遺跡や貝塚などから、イヌの骨がみついています。ネコは弥生時代、ウマとウシは古墳時代の遺跡から骨がみついています。



〔2〕弥生時代

(1) 答え: ㉔

青銅は銅と鉛、錫という金属が合わさった「合金」です。それぞれの割合にもよりますが、

作った当時は新品の 10 円玉のような銅色に輝いていました。今の青っぽい色は緑青ろくしょうとい
って、銅の部分が錆びて現れたものです。

(2) 答え:石包丁いしほうちょう

(3) 答え:(○)穂の部分だけブチブチとちぎっていた

包丁という名前がついていますが、食材を切るのではなく穂摘具ほつみぐとして使われていました。穴に紐ひもを通して右の写真のように稲の穂先だけを収穫し、穂先をいくつか結んで倉庫たくわに貯えていました。



(4) 答え:㊦

お米は長い間保存できる大事な食料ですが、ネズミにとってもお
いしい食料でした。ネズミ返しをつけることで、ネズミが柱を登って倉庫の中に入れな
いようにしていました。ちなみに、㊦のオウム返しは言ったことをそのままくりかえすこと、㊧の
ツバメ返しは柔道じゅうどうの技です。

(5) 答え:㊦

「魏志」倭人伝には、邪馬台国の卑弥呼ひみこという女性が国々の争いを鎮めるために、各地の支
配者に推され女王になったと書かれています。

[ワーク]

㊦ 糸巻きで魚を釣りあげたところだといわれています。弥生時代に描かれる魚はふしぎ
と皆三角で表現されています。

㊦ 臼うすについて脱穀だっくする人です。銅鐸どうたくに描かれる人物には丸い頭の人と三角の頭の人
があり、○が男性で△が女性だといわれています。

㊦ シカの角を持つ狩人かりうどです。銅鐸にはシカが最も多く描かれていて、狩りの様子や群れ
のシカなど、その場面も様々です。

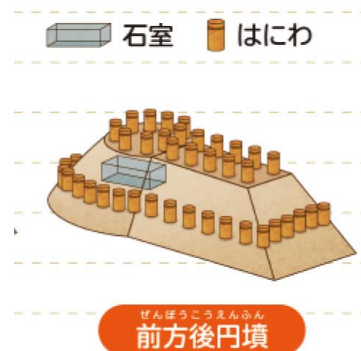
弥生時代には文字が無かったため、絵で物語を表現していました。描かれた絵は2000
年近く経った今でも、なんとなく情景が想像できるものがありますね。

おまけの答えはカエルです。現代では真正面から描く人が多そうですが、弥生時代は上か
らみた形で表現していました。動物の見え方もちょっと違っていたのかもしれませんが。

〔3〕古墳時代

(1) 答え: ㉑

前方後円墳は、その地域を支配していた豪族のお墓です。近畿から瀬戸内海沿岸の地域でつくられはじめ、次第に各地に広がっていきました。



(2) 答え: ㉒

古墳の盛土の上には、たくさんの埴輪が並べられました。最初は筒のような形のもの(円筒埴輪)だけでしたが、そのうち家や人、物や動物をあらわした(形象埴輪)多くの種類の埴輪が作られるようになります。

(3) 答え: ㉓

大王という称号は、天皇より前の称号として連合の中心となった人物に使われています。

(4) 答え: ㉔) 日本で一番大きな前方後円墳である。

大仙古墳のような大きな前方後円墳は、大和(奈良県)や河内(大阪府)に多くみられます。この地域の豪族たちが強い勢力を持っていたと考えられています。

〔4〕古代

(1) 答え: ㉕

710年に藤原京から平城京に都が移ります。そのモデルとなった都が中国・唐の長安城だと言われています。

(2) 答え: ㉖

シルクロードを経由して中国にもたらされた西の文化や文物の一部は、遣唐使を通して日本にももたらされました。現在その一部が、奈良の正倉院の中に保管されています

(3) 答え: ㉗

正倉院は天平時代を中心に多くの美術工芸品を収蔵した高床式の倉庫です。1997年に国宝に、1998年にはユネスコの世界文化遺産に、「古都奈良の文化財」の一部として登録されました。